

特集1:全国頸髄損傷者連絡会 愛知総会

2016年 新年度を迎えて

全国頸髄損傷者連絡会会長 三戸呂克美

2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災の復興も半ばの中、2016年（平成28年）4月14日熊本地震が発生した。被災された県民の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年4月1日に施行された「障害者差別解消法」は我々の生活にどのように生かすのかについてのフォーラムやシンポジウムまたセミナーなどが各地で開催されている。今後一気に加速することになるだろう。しかし、じっと見つめているだけでは何の変化も得られない。今後は現状を維持するのではなく、この制度を利用して日常生活がより良くなるよう行動することが必要である。そのためには、全国頸損連絡会は些細なことにおいても各支部と連携を取りながらまずは我々の中から出された差別となる要因を取り除くべき行動に出たいと考える。もちろん、全国規模には障害種別を超えた行動に積極的に参加をして行く。

全国頸損連絡会は頸損に特化した問題や課題にも取り組む。重度の四肢、体幹麻痺を持つ頸損者は排泄障害、褥瘡といった2次障害、3次障害に日夜悩み続けている。頸損の知識を持つ専門家の養成が急務であり、特に医療職には専門職となる養成機関の設立を提言し、現状におい

ては我々一人ひとりが専門職として支援者、協力者、訪問介護員、訪問看護師などと協力し我々自身がモデルとなり関係者のスキルアップをになうことも必要だ。

ここ近年には重度の障害者が総合支援法から介護保険に移行する人が増えると言われている。そのことを念頭に全国頸損連絡会ではアンケート調査を実施した。その調査結果がまとまり皆さんのお手元に届くよう急いで準備をしている。色々と問題がある介護保険だが、移行する前に得るべき知識が網羅した調査結果となっている。

今年5月28日（土）愛知県名古屋市で開催された全国総会・愛知大会は盛況に幕を閉じた。今まで述べた事は総会の概略であり提出した議題はすべて承認され新年度に向けて気持ちも新たに一歩進んだ一日であった。

